

第 15 回塩谷広域行政組合ごみ処理検討委員会報告

1. 日 時

平成 18 年 11 月 7 日（金） 13 時 30 分～ 16 時 30 分

2. 場 所

塩谷広域行政組合 1 階大会議室

3. 出席者

職 名	氏 名
委員長	(学識経験者) 西谷弘子
副委員長	(さくら市) 菊池崇雄
委員	(矢板市) 長谷川健 小松高行(欠席)
	(さくら市) 天野順子 蛭田幸子 関 忠司
	(塩谷町) 松尾享子(欠席) 立岡芳司(欠席)
	(高根沢町) 飯泉八重子 君島 毅(欠席)
	(地元住民代表) 高塩克敏 岡田 明
	(学識経験者) 小久保行雄
	(アドバイザー) 今泉繁良(欠席) 中村祐司
職員	(矢板市) 高瀬主査
	(さくら市) 手塚副主幹
	(塩谷町) 中島課長補佐
	(高根沢町) 金澤課長補佐
事務局	(塩谷広域行政組合) 高久事務局長 磯室長 小堀主幹 片野係長 印南係長 斉藤主査 阿久津課長 館脇副主幹
	(環境工学) 松本良二 山本方晶

4. 議事次第

1) 開 会

2) 第 14 回ごみ処理検討委員会検討結果報告

3) 報告事項

「塩谷広域処理要望量」の確認について

環境施設の整備パターンとリサイクル協力率ごとの施設規模の見直しについて

その他

4) 議 題

環境施設(熱回収施設)規模の中間提言書について

立地地域に可能な望ましい地域還元施設について

一般廃棄物処理基本計画の減量化・資源化施策について

その他

5) 閉 会

5 . 主な意見

1) 環境施設（熱回収施設）規模の中間提言書について

- ・ 中間報告書については、です・ます調で確認すること。
- ・ P.3 の木製パレットは 4 月から産業廃棄物の指定になったため、考える必要はないのではないか。
- ・ 木製パレットの 785t/年を除き、修正を行う。修正については事務局に一任をお願いする。
- ・ P.4 の「一定程度の余裕」が一致しない。
- ・ 提言書において、用地のことを記載するのはおかしい。
- ・ 「今後、更に」を「早急」にしてはどうか。提言書 P.1 中「また、「塩谷広域行政組合環境施設用地検討委員会」において、環境施設の用地も 7 地区が提案され、今後更に絞込みを行っていくことにしています。」を削除する。確認については、委員長に一任するものとします。

2) 立地地域に可能な望ましい地域還元施設について

- ・ 環境施設、余熱利用施設、地域還元のコミュニティー施設が必要である。
- ・ 新しく必要な項目があれば、次回の委員会で提案してもらいたい。
- ・ 具体的なものを探して出してやらないといけない。委員長の意見のとおりやるべきである。
- ・ 学習する施設では、子供たちにリサイクルや分別をした結果を示し、見られるようにしてやる必要がある。
- ・ 宇都宮市の清掃工場では「あり」の絵が描いてある。土の中の分解者ということである。学習内容として、こういうものを盛り込んでどうか。
- ・ 学習施設建設のスケジュールはどうなっていますか。ごみ処理施設建設後になるのか。3年間かけてつくるのか。
- ・ 住民を巻き込みながらやるほうがよい。
- ・ 建てた後のランニングコストを考える必要がある。
- ・ 最終的に地域の方の考えが優先となる。
- ・ 体験できるものを考えてきていただきたい。
- ・ 日帰りの見学旅行でアサヒビールに行った。リサイクル製品が置かれていた。体験できるものであった。
- ・ 次回の委員会に出席できない方は環境教育施設、余熱利用、コミュニティー施設の案を事務局へだしていただきたい。

3) 一般廃棄物処理基本計画の減量化・資源化施策について

- ・ 横浜市は説明会をよくやっている。やらなければならない。

- ・矢板市の委員会で子供を教育していかないといけない。4年生はどこでもやっていると思う。
- ・松島を見せるなら、他の施設を見せてほしい。汚いごみを捨てているので誤解ではないが、リサイクルを見せたい。
- ・子供はちゃんとする。子供にわかるようにする。
- ・小学校4年で行っているが、教育が重要であるので一つの施策として取り上げてほしい。
- ・ごみのキャッチフレーズを募集したことがある。関心は子供が高かった。
- ・副読本は各町で作っているのですか。
- ・協力率を立てているので各市町に出前講座をやってほしい。その姿勢が協力を繋いでいる。押しかけ講座でもよい。取り組んでほしい。
- ・プラスチック、発泡スチロールを建物があって、住民がフレコンパックに入れている。

4)その他

- ・12月2日、3日に「こちら栃木調査隊」で「(有)ドンカメ」が放送される。これは、県の企画課からの紹介である。
- ・BDF（バイオディーゼル燃料）の製造装置を来週設置し、給食センターの廃油をBDFにする。BDFは給食の配送車に利用することにしている。廃油は「エコハウス高根沢」に住民に持ってきてもらうことにしている。さ来週に出発式を行う予定である。
- ・BDFの製造装置の購入費は600万円、NEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の事業で補助を受けている。

以上